



2021年 11月25日発行 会報 第1079号

今週のプログラム

(2021年 11月 25日 第1079回例会)

『3分間卓話』

テーマ:「コロナ禍のおかげで」

次週のプログラム

(2021年 12月 2日 第1080回例会)

卓話: テニスコーチとしての
社会への恩送り

担当: Do-planning club
坂田 妙子様

第1078回例会 (2021年 11月18日) の記録

<会長の時間>

水島 洋会長

皆さん、こんばんは。

11月はロータリー財団月間にあたりますので、

本日は地区ロータリー財団委員会 委員長 村橋 義晃様においでいただきました。

先ほど村橋様とお話をした時「クラブの皆さんのロータリー財団への理解度はどうですか」というご質問がありました。私は、「財団寄付の人頭割では地区1位になったことが数回ありますし、メジャードナーも数名いますから先輩会員のご指導を受けて頑張ってきたと思います」とお答えしました。

また、千里メイプルで「大阪府新型コロナ助け合い基金」に寄付していますが、地区で取り組む大きな力が必要ではないかと申しましたが、すぐに答えの出ることではありませんでした。

村橋委員長様には基本的なことを含めて、たくさんの資料を準備していただいていますので、30分間の短い時間ですが、ご自由にお話いただきたいと思います。

それでは、本日はどうぞよろしく申し上げます。



水島 洋会長



地区ロータリー財団委員長 村橋 義晃様

<本日のビジター>

2021~2022 年度 地区ロータリー財団委員会 委員長 村橋 義晃様 (大阪中之島 RC)

<出席報告> 水本 徹 SAA 補助

会員数 (内出席免除会員 1 名) 17 名
本日の出席者数 10 名
(内出席免除会員 0 名)
(名誉会員 0 名)
本日の出席率 62.5%

<ロータリーソング> 全会員

♪紅 葉♪

<本日の演奏曲目> 近藤 美里さん

1. 遠くへ行きたい
2. Everybody Loves Somebody
3. My One And Only Love

<幹事報告>

山本 友亮 幹事

1. 大阪府 吉村洋文知事より「新型コロナウイルス助け合い基金」に対する感謝状が届きましたのでご披露いたします。
2. 先週に引き続きクリスマス例会の出欠表を回覧致します。各自ご記入下さい。

《本日のお料理》



1. もち豚のテリーヌ 椒麻ソース
2. オニオンスープ
3. 揚げ雲吞・黒豚揚げ焼売
4. 湯葉巻きの煮込み
4. 黒酢酢豚
5. ご飯・ザーサイ
6. デザート

<ファインセッション>

山田 克子 SAA 補助

例会会場拠金は¥13,032 集まりました。ご協力ありがとうございました。



<SAA 報告>

山田 克子 SAA 補助

※スマイルボックス

相原会員 コメントなし

※ロータリー財団

水島会員 村橋委員長様 本日は宜しく申し上げます。

藤田会員 村橋委員長 本日お世話になります！！

水本会員 いよいよ年の瀬に突入！！ 皆様 乗り切りましょう！

高尾会員 村橋様、本日の卓話よろしく申し上げます。

※米山記念奨学会

高尾会員 コメントなし

※メイプル基金

藤田会員 前回「留学生との交歓会」皆様ありがとうございました。

山本(友)会員 村橋様、本日ありがとうございます。

高尾会員 コメントなし

《ロータリー財団月間 卓話》

RID2660 2021-22 年度 地区ロータリー財団委員会

委員長 村橋 義晃

本日は、例会の貴重な時間にロータリー財団について卓話の機会を頂き、感謝申し上げます。千里メイプル RC の皆様とは「初めまして」ではありません。2012年に RYLA のホストをされた時に大阪中之島 RC の高島ガバナーに同行しまして地区代表幹事として六甲山にお邪魔致しました。その時の紺色のロゴ入 T シャツは今でも愛用しております。そんなご縁を思い出しました。

本題に入る前に次の二つについて改めて確認しておきたいと思います。

一つ目は、ロータリー財団 (TRF : The Rotary Foundation) は、ロータリークラブ、及び、地区を通じて実施された人道的、及び、教育的活動を支援する為の寄付を受け、資金を分配する非営利団体であります。正式名称は、国際ロータリーのロータリー財団であり、ロータリーの方針や理念とは不可分一体の組織であります。

二つ目は、ロータリーの活動と寄付行為との相関関係について確かめておきたいと思います。

「何故、寄付をするのか？その目的は？何に使われているのか？」この様な疑問を持たれている方もおられるかと存じます。目的を正しく理解しないまま寄付をしていると、何時しか疑問を抱き不満につながる場合があります、ロータリーの奉仕活動も寄付行為も正しい理解と納得の元に行うことが大切であると思います。

本日の卓話をロータリー財団について理解を深めて頂く機会として頂ければ幸いです。

【ロータリー財団の歴史】

ロータリー財団の歴史といえば、「財団の父」と言われる「アーチ・クランフ」は、1914年 第一次世界大戦下において国際ロータリー連合会が寄付金減少等によって破綻状態になっても、国際ロータリー連合会 (現在の国際ロータリー) の財務安定を保つ為、恒久的基金の必要性を強く感じていました。

1917年アトランタ国際大会におけるロータリー基金設立の呼びかけは、戦争による世界経済の悪化に備え国際ロータリーの強い基盤となる基金がロータリーを不滅にする手段と考えたとされています。

これが「ロータリー財団」の始まりであります。

【ロータリー財団の定義と使命】

ロータリー財団の定義と使命は、ロータリー財団章典に次のとおり定められています。

▶「ロータリー財団の定義」（財団章典 10.010.）

ロータリー財団は、ロータリークラブ及び地区の承認を得て実施された「人道的活動」や「教育的活動」を支援するために寄せられた資金をルールに基づいて公平に配分する非営利団体である。」

▶「ロータリー財団の使命」（財団章典 10.020.）

2021年7月1日から7つ目の重点分野として「環境」を追加することが決定され、「ロータリアンが人々の健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築できるよう支援することに改定されました。」

【2021-22年度 地区ビジョン・中期目標・地区方針】

【地区ビジョン】（抜粋）

世界の未来を担う青少年の活動を支援し若きリーダーの育成に努めます。

【地区中期5ヶ年目標】（抜粋）2017-18～2021-22年度

- ▶財団補助金の一層の利用促進を目指します。
- ▶ロータリー財団及び米山記念奨学会への寄付を推奨し寄付ゼロクラブが無くなることを目指します。

【2021-22年度 吉川 DG 年度 地区年次目標】（抜粋）

ロータリー財団へのご協力をお願い致します。

- ▶年次基金寄付 150ドル/会員
- ▶ポリオ寄付 50ドル/会員
- ▶ベネファクター（恒久基金寄付）1名/クラブ

【地区ロータリー財団委員会の活動方針】

▶ポリオ・プラス

ポリオ・プラスの活動について、世界の現況について最新の情報を提供しポリオ根絶への理解と協力を得られるように啓発活動を行っています。

▶資金推進

ロータリー財団への寄付の種類、寄付をし易い仕方や寄付と認証について正しい知識から理解を深めて頂き財団補助金の原資となる寄付へのご協力を得られるように活動を行っています。

▶資金管理

ロータリー財団の補助金を定められたルールに基づいて利用して頂くために適切な情報を提供し、適正な補助金活用の管理を行います。

▶補助金

ロータリー財団の方針に基づいてDDF活用を推進し、クラブの補助金申請の審査から補助金配分に至るまでクラブのサポートを行い、補助金の公平な配分を行います。

▶奨学金

地区財団奨学生事業の広報を行いロータリー財団奨学生や平和フェローの募集選考から留学終了に至るまで奨学生のフォローを行い、世界平和の為に世界で活躍できる人材育成を支援する活動を行っています。

【ロータリー財団のシェアシステム】

年次基金として3年前の年次基金寄付の50%が配分され、恒久基金には使用可能な投資収益の50%が配分されます。シェアシステムでは資金が国際財団活動資金(WF)と地区財団活動資金(DDF)に二分され、DDFは補助金として「世界でよいことをする」ための活動資金に充てられます。WFの用途はロータリー財団管理委員会が決定し、DDFの用途は各地区のロータリー財団委員会が決定します。

【ロータリー財団資金モデルの変更ポイント(2021年7月1日から適用)】

- ① ポリオ・プラスへの(DDF)地区財団活動資金寄贈に対して(WF)国際財団活動資金からの上乗せが100%から50%に変更される。
- ② グローバル補助金のDDFに対するWFからの上乗せが100%から80%に変更される。
- ③ 年次基金寄付の5%が運営費として、WFから充当されていましたが(WF)と(DDF)から2.5%ずつ均等に差引かれる。
- ④ 年度末のDDF残高を次年度のDDFに繰越し出来るのが5年間のみとなる。
地区の指定に基づき、ポリオプラス、恒久基金、平和センター、災害救援基金、WFのいずれかとして使用される。

【ポリオ根絶の現況】

アフリカ地域での野生株ポリオウイルス根絶は、昨年8月25日に認定されました。この認定はアフリカ最後の常在国であるナイジェリアで最後の症例が記録されてから4年間の徹底した検証を経て行われたものです。

これは、体の麻痺を起こす恐ろしい病気から世界の子どもたちを守る闘いにおいて非常に大きな前進であります。

これはGPEIを中心とした国際的なパートナーシップが有効に機能した証です。

その仕組みを築きあげたのが我々ロータリーの諸先輩方です。

【最後に 「ご理解頂きたい事とお願い」】

ロータリー財団の活動目的は、寄付を集めることのみではありません。

皆様からのご寄付を原資とする補助金を活用して「世界でよいことをする」ことであります。

地区財団委員会も財団プログラムを活用したプロジェクトを実施されるクラブをサポートするための活動をしています。地区財団委員会の機能をご活用頂ければ幸いです。

来年3月から次年度の実施に向けた地区補助金申請の受付が開始されます。

財団の重点施策である健康改善・教育支援・貧困救済のいずれにも共通する「地域の子供達への支援」を主要テーマとしてプロジェクトの計画をご検討下さいます様お願い申し上げます。

今後共、ロータリー財団へのご支援ご協力をお願い申し上げます。

末筆ながら貴クラブの皆様の益々のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

